山﨑 樹一郎
Yamasaki Juichiro

真庭人
MANIWABITO

食べ物を作って、映画を作って

最新作『やまぶき』の各国の映画祭への出品・受賞が続く、映画監督の山﨑樹一郎さん。「映画を作り始めるときは、テーマは決めません。『やまぶき』に関しては、社会全体から感じた違和感や憤りから、映画を作らねばと思いました」と話します。

学生時代は京都にいて、学生映画祭で仲間と映画を作ったり、学生の作った映画を審査して選んだりしていたそうです。そうしているうちに、なんとなく映画で生きていこうと思うように。就職氷河期だったこともあり、就職するより自分のやりたいことを続けようと思い、映画製作や映画に関わることを考えていたそうです。しかし、なかなかうまくいかず、どうなるんだろうと不安に。そんなとき、「食べ物を自分で作れたら、生きていけるし、その中で映画製作も続けられたらいいな」と考え、父親の実家がある真庭に移住し、祖母と暮らしながら農業を始めたそうです。

真庭で映画製作

移住して2年ほど経った頃、しばらく芸術的・文化的な体験をしていないことに、はたと気付いたとのこと。映画の上映会でもやりたいなと思い、勝山で開始。すると、徐々に映画仲間ができ、1本映画を撮ってみようという雰囲気に。初めて映画を作る人たちばかりと一緒に短編映画を製作すると、大阪や東京などでイベント公開され評判に。「なんか、やったらできそうだな、長編映画を撮りたいな」と思うようになったそうです。

真庭で映画を製作することについては、「住んでいる場所の影響はとても大きくて。身近な真庭という場所や人が映画に反映されるのは多いと思います」と話します。

「子どもが少なくなり、コロナもあって、どんどん社会的に苦しくなるんだろうなと思っていて、そんな社会の中では、芸術や文化は真っ先に切り落とされるものだと思います。でも、そうなっていいのかと。芸術や文化が生活の中にあるというのは、とても豊かなことだと思うし、生きる上で、切実で、重要で、必要で。そういう場所や時間をなんとかキープしたい。応援してもらえたらと思います。『やまぶき』皆さんに見てもらいたいですね」と話してくれました。

映画づくりワークショップで
子どもたちと一緒に映画製作

楽しい、面白い時間にいられたらいいなと思いながら映画を作ってます

山﨑樹一郎さん（久世）

1978年生まれ。大阪府出身。2006年、真庭に移住し、映画監督をしながらトマト農家として農業に携わる。これまでに『ひかりのおと』『新しき民』などの映画を製作。真庭で映画教育を実践中。

まにわびと 39 2023